

令和4年度 東京都内湾水生生物調査 10月鳥類調査 速報

●実施状況

令和4年10月11日に鳥類調査を実施した。天候は晴れで、気温23.8～26.0℃、南～東の風、風速1.4～3.0m/secであった。調査当日は大潮で、干潮が11時42分(66cm)、満潮は17時29分(201cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
作業時刻	9:12-10:35	11:20-12:12	12:40-13:40
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	23.8	25.8	26.0
風向	南	南東	東
風速(m/sec)	1.4	3.0	2.9
備考	調査開始時は潮が高く、干潟の干出面積が少なかった。	船舶の往来が多かった。	第六台場周辺は波のうねりが大きかった。海浜公園側に人が多かった。

●主な出現種等

	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
数が多かった 鳥類上位2種	ウミネコ(741羽) カワウ(423羽)	カワウ(265羽) ユリカモメ(91羽)	カワウ(84羽) アオサギ(20羽)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として、12種を確認。(チュウサギ、ヒクイナ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、オオセグロカモメ、ミサゴ、等) ・干潟でカワウとカモメ類の群れが休息、サギ類の群れが採餌。 ・シギ・チドリ類は干潟でダイシャクシギとオオソリハシシギ、ヨシ原脇の草地でタシギとイソシギを確認。 ・ヨシ原でヒクイナの鳴き声。 ・沖合をオオミズナギドリが飛翔。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として、8種を確認。(コウノトリ、ハヤブサ、等) ・干潟でカワウが休息。カモメ類は休息個体が多いが、ユリカモメは主に採餌。サギ類は採餌と休息が両方見られた。 ・干潟でコウノトリ1羽が採餌した後に休息。足環の色から福井県で放鳥された個体と判明した。本調査で初記録。 ・猛禽類はトビとハヤブサを確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として、8種を確認。(オオタカ、ノスリ、等) ・カワウの個体数は少なく全体で84羽、第六台場は水面を泳ぐ2羽のみ。営巣は見られなかった。 ・サギ類はアオサギ、ダイサギ、コサギの3種を確認。 ・猛禽類はオオタカ、ノスリ、トビの3種を確認。オオタカは第六台場の樹上にとまっていた。 ・カモメ類はウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメの3種を確認。

<葛西人工渚(東なぎさ)>

○調査地点の状況

干潟は狭く、調査中に徐々に広がっていった。



○出現種(シギ・チドリ類)

ダイシャクシギ 2 羽とオオソリハシシギ 1 羽が干潟で、タシギ 2 羽とイソシギ 2 羽がヨシ原際の草地で確認された。ダイシャクシギは東京都レッドリストで絶滅危惧 IA 類(CR)、オオソリハシシギは環境省レッドリストで絶滅危惧 II 類(VU)、東京都レッドリストで絶滅危惧 I B 類(EN)、タシギとイソシギは東京都レッドリストで絶滅危惧 II 類(VU)に指定されている。



ダイシャクシギ



オオソリハシシギ



タシギ

○出現種(オオミズナギドリ)

沖合の海上に 5 羽のオオミズナギドリが出現し、海面付近を低空で飛翔する様子が見られた。

○出現種(マガモ)

干潟上空を通過するマガモ 1 羽が確認された。



○干潟利用状況

干潟でカワウとユリカモメ、ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメの群れが休息。浅瀬や水たまりでアオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギが採餌していた。サギ類のうちダイサギは東京都レッドリストで準絶滅危惧(NT)に、チュウサギは環境省レッドリストと東京都レッドリストで準絶滅危惧(NT)に、コサギは東京都レッドリストで絶滅危惧 II 類(VU)に指定されている。



<森ヶ崎の鼻>

○調査地点の状況

最大干潮時刻だが、干潟は比較的狭かった。



○出現種(コウノトリ)

干潟で採餌した後、休息するコウノトリ 1 羽が確認された。一度飛び立って高空を飛翔した後、再び干潟に戻って来たが、その後、行方不明となった。本種は文化財保護法で特別天然記念物に、種の保存法で国内希少野生動植物種に、環境省レッドリストで絶滅危惧 IA 類(CR)に指定されている。本調査では初記録。



コウノトリ (左) とアオサギ



飛び立つコウノトリ

○出現種(タカ・ハヤブサ類)

干潟や上空でトビが見られたほか、コウノトリに対して急降下を繰り返すハヤブサ 1 羽が確認された。トビは東京都レッドリストで準絶滅危惧(NT)に、ハヤブサは種の保存法で国内希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧 II 類(VU)、東京都レッドリストで絶滅危惧 I B 類(EN)に指定されている。



トビ



ハヤブサ (上) とコウノトリ

○出現種(カルガモ)

護岸付近を泳ぐカルガモ 8 羽が確認された。冬鳥のカモ類は見られなかった。



○干潟利用状況

カワウ、ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメが干潟で休息し、ユリカモメは水際で採餌していた。アオサギとダイサギ、コサギは採餌・休息する個体が両方見られた。



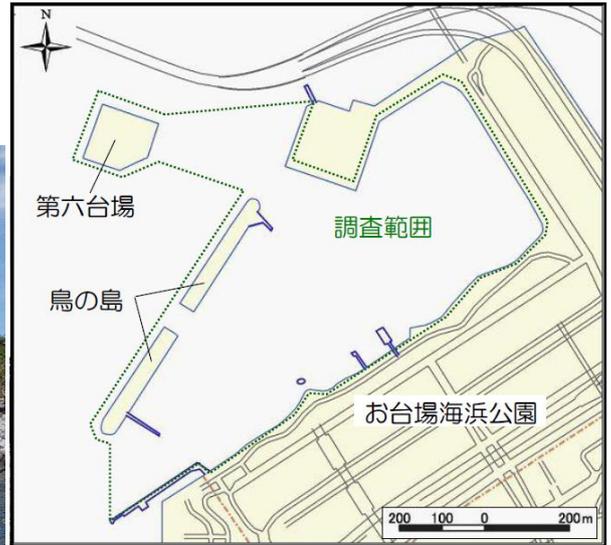
セグロカモメ

干潟で休むユリカモメ (足が赤色) とウミネコ (足が黄色)

<お台場海浜公園>

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島ではカワウの営業は終了していた。



○出現種(カワウ)

第六台場、鳥の島いずれも繁殖活動は終了しており、使用中の巣は見られなかった。個体数は先月に続き非常に少なく合計 84 羽で、うち第六台場では樹上にいる個体は 0 羽、付近の水面を泳ぐ個体が 2 羽のみであった。鳥の島の護岸では群れで休息しているのが観察された。



○出現種(タカ類)

第六台場の樹上にとまり休息するオオタカ、鳥の島付近を低空で飛翔するノスリ、鳥の島からお台場海浜公園上空を飛ぶトビが確認された。オオタカは環境省レッドリストで準絶滅危惧 (NT)、東京都レッドリストで絶滅危惧 I B 類 (EN) に、ノスリは東京都レッドリストで絶滅危惧 IA 類 (CR) に、トビは東京都レッドリストで準絶滅危惧 (NT) に指定されている。



○出現種(カモメ類)

ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメの 3 種が確認された。ウミネコは東京都レッドリストで留意種に、オオセグロカモメは環境省レッドリストで準絶滅危惧 (NT) に指定されている。



<その他>

○ウミネコの繁殖

砂町運河ではウミネコ成鳥 1羽を確認したのみで、構造物上には巣の痕跡も見られなかった。今季の繁殖は終了したと考えられる。なお、京葉線の高架にとまるカワウ 1056羽、周辺でアオサギ1羽とダイサギ10羽、イソシギ1羽が確認された。カワウは令和2年9月、令和3年9～11月、令和4年6～10月の調査で高架にとまる群れが確認されており、個体数は今回が最多である。



ウミネコが営巣する構造物



高架にとまるカワウ

<トピックス>

- コウノトリはどこから来たか -

森ヶ崎の鼻で観察されたコウノトリには右足に黄青、左足に黒青の足環が装着されており、色の組み合わせから2018年9月17日に福井県越前市で放鳥されたJ0203(愛称こころちゃん)と分かった¹。この個体には当初GPSが装着されていたため、詳細な位置情報を知ることができたが²、脱落したのか今回発信機を見ることはできなかった。2018年10月末から2019年7月末には千葉県鴨川市、館山市に滞在³するなど各地を移動しており、最近では2022年9月8日に三重県四日市市で確認されている⁴。



¹ コウノトリ個体検索 <https://kounotori.ippm-ows.jp/>

² https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/shizen/kounotori/kounotorijyouhou_d/fil/07_4_kokoro.pdf

³ 関東・こうのとり飛来地2019年版 https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000743650.pdf

⁴ https://stork.diasjp.net/guest/sthistory2list.php?st_kotai_id=J0203